



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

# Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 008 Jul 12, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前

様 メールアドレス

@

**FAX番号 03-5542-2912**

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。  
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。  
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

## 米国食肉市場ニュース

### ～ 牛肉 ～

牛肉市況(6月21日～25日)

- 週間と畜頭数：67.5万頭(前年比10.5%減)。
- 肥育牛の取引価格(100ポンド[約45kg]当たり)：  
主要5市場では、平均89.55ドル(先週比2.53ドル高)。  
枝肉価格は平均139.95ドル(同2.58ドル高)。
- 牛肉価格：先週からの動きは微少。歩留まり等級3(YG3)のチョイスは144.31ドル(先週比0.27ドル高)。YG2～3のセレクトは138.45ドル(同0.86ドル高)。チョイスとセレクトの価格がここまで僅差なのは、最近では珍しい。

主要12州<sup>1)</sup>のフィードロット内頭数<sup>2)</sup>、前年比0.7%増

(2004年6月1日現在)

	2004年 <sup>3)</sup>	対前年
5月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	10,616	98.3%
5月導入頭数	2,363	102.4%
5月出荷頭数	2,028	90.6%
5月のその他の消失 <sup>5)</sup>	79	121.5%
6月1日現在フィードロット内頭数 <sup>4)</sup>	10,616	100.7%

### ●生体牛の取引価格、予想外に回復

先週からあまり変動がないと見込まれていた生体牛の取引価格が、強い回復力をみせている。取引引きは6月第4週半ばから活発になり、週の終わりには先々週レベルの89～90ドルまで回復した。これは先週に比べ3ドル高。

この市場の激しい値動きは、ここ数年では例をみないとアナリストは言う。1頭分の加工につき16～20ドルの損失と、急落し始めたボックスビーフの価格にもかかわらず、市場は急速に回復している。

と畜頭数に大きな変化のない中で、パッカーがどうやって牛肉の価格上昇に成功したか推測するのはむずかしいとアナリストは言う。7月4日(独立記念日)前の需要増加と、牛肉製品の価格の値上げによって、パッカーは現在の厳しい状況を乗り切ろうとしているとの見方もある。

オクラホマシティーにおける去勢素牛の体重別、100ポンド(約45kg)当たりの価格(US\$)

体重(ポンド)	6月21～25日
425～500	133.00～140.00
500～600	119.50～139.50
600～660(子牛)	119.75～123.50
550～600(若齢牛)	122.50～126.00
600～700(若齢牛)	116.00～124.00
700～800	110.00～120.00
800～1000	101.75～113.50

※2004年6月25日Cattle Outlook  
(Glen Grimes & Ron Plain)

注:1.アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン

2.収容頭数1,000頭以上。

3.単位:1,000頭。

4.穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。

5.死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。

※2004年6月21日Cattle On Feed (Glen Grimes & Ron Plain)



**米国食肉市場ニュース**  
～ 牛肉 ～

この状況下だが、フィードロット内頭数では、ここ数年の5月の記録を塗り替えた。5月のフィードロットに加えられた236万3000頭は前年同月比で2.4%増であり、前年同月比の増加としては、今年初めてである。

※2004年6月28日 Cattle Buyers Weekly

**米国食肉市場ニュース**  
～ 豚肉 ～

豚肉市況 (6月21日～25日)

●週間と畜頭数：185.6万頭 (前年比3.6%増)。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は、先週比4.00ドル高。

●成豚の現金取引価格：

全体的に先々週よりやや高め。電話取引における重量別の取引価格は40～50ポンドが65.00～91.00ドル、50～60ポンドが65.00～93.00ドル、60～70ポンドが82.50～83.00ドル、70～80ポンドが73.00ドル。

主要市場における100ポンド(約45kg)当たりの最高価格 (US\$)

	6月25日
ペオリア	57.00
セントポール	54.00
スーフォールズ	58.00
ミズーリ中央部	56.50

185ポンド物 (約83.5kg) の  
枝肉平均価格 (US\$)

	6月25日
東部トウモロコシ地帯	79.28
西部トウモロコシ地帯	80.60
アイオワ・ミネソタ	80.66
全国	80.00

冷凍豚肉の在庫数 (前年比) : 5月の終わりの  
在庫数は、取引価格を考えると比較的良好。

製品名	
ロイン	5%減
ポストン・バット	45%減
ポークベリー	10%減
冷凍ハム	37%減
全冷凍豚製品	16%減

100ポンド (約45kg) 当りの豚肉製品価格 (6月25日/US\$)

製品名	価格 (前週比増減)	備考
ロイン	118.00 (-11.71)	トリム1/4インチ
ポストン・バット	93.50 (-12.50)	トリム1/4インチ
ポークベリー	116.00 (+8.00)	14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg)
ハム	67.57 (+5.07)	17～20ポンド物 (約7.7～9.1kg)

※2004年6月25日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)

**パッカーニュース**

●**ダコタビーフ社、オーガニックビーフの加工工場の操業開始**

ダコタビーフ社は今年8月までに、オーガニックビーフの加工工場の部分的な操業を開始する。4カ月後には1日80頭 (約7万ポンド) を加工する全面的な生産を目指す。

「今、高品質の食品を求める健康指向の消費者は多い。そこにオーガニックビーフの需要があると判断している」と、同社は述べている。取り扱うオーガニックビーフは、工場に隣接する農場で、抗生物質やホルモンを使用せず、動物性肥料無使用の有機野菜を飼料として育てられる。

また、この工場は家畜個体識別システムも完備し、ID管理も徹底している。したがって消費者は、製品がどこで飼育され、何を肥料としていたかなどの情報を全て知ることができる。

※2004年6月29日 Meatingplace.com

●**抗生物質フリー・ポーク、生産者とエクセル社が共同でマーケティング**

プレーリー・グローブ・ファームス社 (PGF) とエクセル社が、PGFが生産した抗生物質無使用のポーク製品を共同で販売促進していくことで合意、協定を結んだ。

これにより、PGF側はエクセル社のマーケティング・流通を活用できる一方、エクセル社も抗生物質無使用の新製品を販売できる。

PGFは年間15万頭の豚を飼育、その内11万頭を抗生物質無使用で育てている。これらはエクセル社の工場加工後、プレーリー・グローブ・ファームス・ブランドとして、販売されることになる。

※2004年6月16日 Meatingplace.com



業界ニュース

●USDA、個体識別システム導入のための政府支援を発表

米国農務省(USDA)は6月16日、家畜個体識別システム初期導入のための政府支援の申し込み受け付けを開始すると発表。これは州政府および自治政府向けに行われ、合計1,164万ドルの支援金が用意される。

「統一された個体識別システムによって、政府と業界が家畜の病気により早い段階で対処でき、市場と消費者への経済的負担を低減できる」と、動植物衛生検査局(APHIS)は述べている。

※2004年6月16日 [www.aphis.usda.gov](http://www.aphis.usda.gov) Press Releaseより

●スィフト社が、業界初の家畜個体識別システムを導入

スィフト社は、食肉市場の食品安全管理を高める家畜個体識別システム「スィフト・トレース」を導入した。これは牛の個体識別システムで、以下の主要な要素を備えている。

- ・フィードロットからボックスビーフまで、加工プロセス全ての管理。
- ・個々の生体牛の管理も可能。オプティブランド社との共同開発により、牛の耳標と家畜の網膜パターンを読み取り、データベースと連動させるシステムを持つ。

「同システムは、加工製品から個別の牛に至るまでの情報を追跡することができるだけでなく、生産者までさかのぼることも、消費者まで辿ることもできる」と、スィフト社は述べている。

「我々にとって、食品の安全が第一。海外の市場は、積極的にグローバルな家畜個体識別システムを探している。アメリカ国内でも導入するべきだ」

すでにスィフト社の主要取引先はこのシステムに関心を示しており、同社の小売とフードサービス業界の取引先まで、システムの情報が共有できるようにして行く予定。

※2003年11月30日 Swift & Company News Release